



学びのページ



「仁」

今

回は「仁」について学びていきますしょう。

言葉の意味を辞書で引いてみると、「仁」とは儒教の根本概念であり、「自他に隔てをおかず、一切のものに対して親しみ、慈しみ、情け深くある『思いやり』の心」とあります。

すべてのものに対して無差別平等に向けられる思いやりの心、「仁」とはまさに、神様の愛情そのものなのです。

また、「仁」という漢字の成り立ちは、「人」と「二」が合わさってできており、「二人相親しむ」という意味があります。そのことから、「人と出会った時、お互いに相手と仲良くしたいと思つ心」が仁であるとも言われています。

例えば、進級、進学をして新しいクラスになった時や、青年部活動で何かの集まりに参加する時

に、「みんなと仲良くねれたらいいなあ」と思った経験はありませんか？ それは私たちの心に「仁」があるからです。

人間は決して一人では生きていけません。誰かに助けられ、自分もまた誰かを助けながら生きているのが私たちです。そうした中で相手を尊重し、思いやる「仁」の実践は不可欠です。

この「仁」を行う際に、注意することがあります。自分が良かれと思つて行ったとしても、相手によつては迷惑になることもあるため、安易に「善いことだから」と行つことは、気をつけなければなりません。

「仁」の第一歩は、まず「自分がされて嫌なことを相手にしない」こと。これは仏教やユダヤ教、イスラム教などでも同じことを教えています。また逆に言えば、「相

手が望んでいることを行つ」ことです。自分がやりたいことをやるのではなく、「ついたらこの人は嬉しいかな」と、相手の気持ち想像して行うことが大切です。

小さなことから構いません。例えば、冷蔵庫に冷やしてある麦茶が少なくなっていることに気づいたら、次に飲む家族のために黙つて補充しておいたり、学校や職場、家庭の中で他の誰かが「助かるだろうな」と思つことを実践してみましよう。

いつも誰かの幸せのために行動する人は、周りの人から大切にされ、自分が困つた時には手を差し延べてもらえるものです。ぜひ、本当の思いやりをもつた「仁」の人になつてくだささい。

◎日常生活の中で「これって思いやりだな」と思つことを挙げてみましよう。